



望

と

勇

## 競技の面白さに加えて

ミラノ・コルティナ冬季オリンピックが開幕しました。選手の皆さんの活躍に胸が躍る毎日です。メインのLIVE中継が深夜に及びますので、早朝の中継や朝のニュースで快挙を知るという方も多いのではないのでしょうか。

スキーやスノーボードスケートなど雪国長野県にはすっかりお馴染みのスポーツですが、ちょっと深掘りしてみると初めて知ることも多くありました。

まずはスノーボード女子ビッグエア金メダルの村瀬 心桜 選手。演技のすばらしさと言うまでもありませんが、インタビューの中の言葉が印象的でした。「この瞬間が楽しくてスノーボードを続けています」…この瞬間とは、ジャンプ直後のこと。ライバルの各国選手が彼女のもとに駆け寄って抱擁し、胴上げする様子が放送されました。スノーボードの世界には、その日最もカッコいい演技をした選手をみんなで祝福するという文化があるそうです。それが金メダリストかもしれないし、そうではないかもしれない。同じ競技を楽しむ者同士分かり合えるカッコよさがあるのかもしれない。その話をしているときの村瀬選手の顔が緩んだ、というか柔らかな笑顔になりました。競技である以上一つ上の結果を求めることはもちろんですが、それ以上に仲間を大事にする文化があるように感じました。

続けてノルディック複合の 渡部 暁斗 選手。初戦のノーマルヒルは11位という結果に終わりましたが、最後のオリンピックを楽しむ心のゆとりのようなものを感じました。その渡部選手、後半のクロスカントリー発走直前にSNSにメッセージを投じたそうです。「競技存続のためにもテレビでLIVE観戦してください！」…キングオブスキーともいわれるノルディック複合が、そんな状態だとは知りませんでした。気持ちに伝えるように観戦しますと、これがやっぱり面白い！思わず声を出してデッドヒートに食い入りました。

試合後のコメントには、視聴率と会場の盛り上がりと言及する内容がありました。自分のことだけではない、競技全体を見渡す視野の広さに、超一流の凄みを感じます。

この後も注目の競技が目白押しです。結果に一喜一憂しながらも、競技の面白さに加えて奥行きを少しでも垣間見れるよう、見る側の目も肥やしていきたいと思います。